

10 1日1回投与法におけるアルベカシン血中濃度

— ピーク値についての検討 —

継田 雅美・吉川 博子*

新潟市民病院薬剤部

同 感染症科*

1日1回投与法でのABKの目標血中濃度を設定するため、複数回投与法における副作用発現注意濃度であるピーク値 $12\mu\text{g}/\text{mL}$ を超えた症例と従来の目標血中濃度ピーク値 $10\sim 12\mu\text{g}/\text{mL}$ の症例を効果と副作用について比較・検討した。対象は、1999年4月～2002年8月にABKを投与されかつ血中濃度測定を行ったトラフ値 $2\mu\text{g}/\text{mL}$ 未満の症例中ピーク値が $10\sim 12\mu\text{g}/\text{mL}$ であった7症例と、 $12\mu\text{g}/\text{mL}$ を超えた9症例である。効果ありの判定はピーク値 $10\sim 12\mu\text{g}/\text{mL}$ の7症例中3例(42%)、 $12\mu\text{g}/\text{mL}$ を超えた9症例中5例(56%)であった。すべての症例に腎機能障害はみとめられなかった。効果についてはピーク値 $12\mu\text{g}/\text{mL}$ を超えた症例のほうが若干良い結果となったが、症例数が少なく今後の検討とともに目標濃度の再考が必要である。

II. 特別講演

「薬剤耐性菌対策としての抗菌薬開発」

財)日本抗生物質学術協議会 常務理事

八木澤 守 正

第33回新潟糖尿病談話会

日 時 平成16年3月6日(土)

午後1時30分～

会 場 新潟ユニゾンプラザ 4階
大研修室

I. 一般演題

1 インスリン注射針の節約を紹介して

村越 恵子・岡田 節朗

かえつクリニック

【目的】インスリンの自己注射において、毎日の針交換は不要と内外の医師からも指摘され始めている。主治医が外来の際、注射針の節約を紹介。アンケートで、その効果を調査。

【結果】一日一回…53.6% 毎日交換…23.4%
7日以上使用…4%

よかった点、注射が簡単になった。針を節約できる。

【考察】患者の自己負担、インスリン手技の煩雑さを軽減できる。185人の13300回針の頻回使用で、トラブルは1例も無かった。

【まとめ】患者のQOLの向上に役立っている。

2 栄養指導に対する患者の理解度

— アンケートを実施して —

長谷川美代・小林 昌子・齋藤 鏡子

石月公美子・佐野 和江*・石井 幸子*

植木静恵子*・金子 元徳**

小菅恵一郎***・佐々木英夫***

新潟こばり病院栄養科

同 看護部*

同 薬剤部**

同 糖尿病センター***

【目的】当初80m離れていた栄養指導室を糖尿病外来に隣接して新設し、積極的に指導を行い、その効果について検討した。

【方法】H15年9月より継続的に栄養指導を受けている患者を対象に本年1月にアンケート調査

